

No. 23

6月号

令和6年
2024・5・20



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行

日立市視聴覚センター

〒317-0073

日立市幸町1-21-1

電話：0294-24-5055

FAX：0294-24-5066

校章

特集

郷土愛を育む・地域の植物や自然をデザイン化



図1



図2

現在のグローバル社会において校章は、企業・団体のイメージや帰属意識を高めるために身に着ける重要なシンボルマークです。学校においてもまた、校章は校歌と共に、学校教育の理念等をシンボル化した視聴覚アイテムと考えることができます。

校章デザインの特徴として、次の3要素があります。それは①小中学校等の区別②校訓や地域性（自然）③由緒沿革のデザインです。

さて、問題です。この校章(図1)はどここの学校でしょうか。

この校章は市内41校(令和元年度現在)において、とてもシンプルな校章のひとつです。「中」の文字を中央にレイアウトし、そこから放射状の広がりを星型でデザインしています。ヒントはこの「中」が地名か、「中」学校かで解くことができます。

地名であれば中小路であり学校は特定され、また中学校であれば全14

校が対象となります。

歴史的な背景をさかのぼるとこの学校は、平和台団地等の山際の宅地造成で人口が急増し、それまでの多賀中学校から分離独立して昭和36年(1961)に創立されました。

図2はこの中学校と対をなす小学校の校章です。明治5年(1873)に学制が公布された翌年に創立された小学校です。上がり藤の円形の中に「大」を太文字でデザインしています。藤は、つる性の花木で春先に清純な花を咲かせます。「上がり藤」にして学校の発展を祈念したデザインです。2つの校章の共通点は、シンメトリーであり、中心線で左右を折ると見事にびたりと重なります。

昭和62年(1987)当センターは、大雄院小学校等の閉校に鑑み、市内38校の校歌・校章の記録保存、活用を目的に『日立市立小中養護学校校

歌集』を発刊しました。

41の校章デザインの構成を6素材(文字、自然、植物、動物、文房具、その他)に分け全体の傾向を調べると、①文字(100%)、②植物(63%)、③自然(34%)の順に多く活用されています。

①植物ではスズラン、梅、桜、桐、稲穂等が幅広くデザイン化されています。②自然では、海、波、太陽、川、山等が地域性を表現する素材としてデザイン化されています。

また校章制定については、委員会を組織し一般公募、選考する方法が多く採用されていますが、中学校では美術科担当教員が中心となり制定された学校もあります。

さて、学校名は分かりましたか。

これは、大久保中学校の校章です。「大」の文字を生かして、両手両足を大きく広げ飛躍する姿を象徴化し、願いが込められた校章といえます。

金子みすゞ
やさしさの風景

製作：増田迪博 制作・配給：学習研究社
声の出演：蒼井優 他 アニメーション制作：プロムナード

今月の
オススメ
鈴木

公開：2012年
時間：17分
貸出番号：1201278

小学校の国語教科書にも掲載され親しまれている童謡詩人・金子みすゞ。代表的な詩10点をアニメーションと朗読により映像化し、みすゞの詩にこめられた想いを情感豊かに表現した新しいスタイルの映像詩アニメーション。

